

**問** 中心商店街の将来と  
民間への移行策について

**答** 具現化による民間経済へ  
円滑な移行を図る



船野 章 議員

**同** 私は、6月議会において、「中心商店街に係る再生の在り方」と題して通告質問した。

ところがその答弁は、厳しい情勢、二重債務の買取、補助金の交付、活気が溢れる商業の振興等で、どの答弁をとっても抽象的で具体性に乏しく集客に結び付く施策になく憤りさえ感じた。そこで、前回同様の趣きにある質問を行う。

市長は中心商店街の再

生なくして復興はありえない。民間活力を活用し軟着陸を目指すとしている。手詰まり感さえ覚えるがそこで、中心商店街のあるべき姿と民間への移行策を具体的に伺う。

**答** 市長 中心市街地の大船渡駅周辺地区は、災害に強い産業振興・安全・安心な整備事業を進めている。このような中、地域の特性や大船渡らしさを活かしつつ中心商店街を形成し、賑わいを生み出し魅力的な街づくりを展開している。少子高

齢化・人口減少や後継者不足による空き店舗の増加等、取り巻く環境は変化しており商店街の役割が重要とされ変革を迫られている。今後においては、市の事業や国・県等の各種制度を活用した支援・商工会議所と連携した活動への支援を行うとともに、交流人口の拡大をはじめ、大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる施策・プロジェクトの具現化による民間活力経済への円滑な移行を図りたい。

少が続く状況下の市政にあっては、産業振興に向けて積極的取り組み、地域経営の担い手となる人材を確保・見出しながら、将来にわたる持続的なまちづくりを推進するべきと考える。



大船渡駅周辺地区の街並み

**問** 当市の将来像と方向性は

**答** 持続的なまちづくりを  
推進すべきと考える



志田嘉功 議員

**同** 市長の政治姿勢における、当市のあるべき将来像と方向性について、市長の見解を伺う。

**答** 市長 「地方創生」と「復興の総仕上げ」の連動による成果を礎とし、「持続可能なまちづくり」を推し進めることが、将来におけるあるべき姿と考える。

今後において中長期的に対応しなければならぬ課題は「人口減少」問題である。当面、人口減

少が続く状況下の市政にあっては、産業振興に向けて積極的取り組み、地域経営の担い手となる人材を確保・見出しながら、将来にわたる持続的なまちづくりを推進するべきと考える。

**問** 震災後の湾の環境は

**答** 大船渡湾水環境保全計画における、東日本大震災後の湾の環境について伺う。

**答** 部長 県の水質測定結果では、「化学的酸素

要求量」は震災後に大きく改善したが、震災から年数が経過し、29年度の測定結果では、震災前の状況に戻りつつある。

また、底生生物の有機汚濁が進んでおり、水中の溶存酸素量が不足した水域となる可能性、さらに湾口部の海水流量量は震災以降、経年的に低下している。

今後とも、湾内の水質状況、海水流量量などについて、調査を継続し、実態について把握していきたい。



大船渡湾の水質は



勤労青少年ホーム

**問** 勤労青少年ホームは、利用者の減少や耐震基準を満たしていないことから廃止・解体の方針が示され

**答** 市長 勤労青少年

ホームは東日本大震災により大きな被害を受けた。平成26年に復旧工事を経て利用を再開したが、利用者数は伸びなかったことから、平成29年に一般市民に対し、使用料を徴収し施設を広く開放した。平成29年度に耐震診断を実施したところ、現行の耐震基準を満たさない建物であることが判明し、この診断結果を踏まえ、耐震改修と解体について検討を行ったが、総合的に勘案した結果、勤労青少年ホームを廃止・解体することが最善

と判断した。地域づくりについては、**問** 地域づくりについては、**答** 市長 人口減少社会においても持続可能な地区をつくることである。地区が一体となった活動を行う体制が整備され、住民が主体となって、地区の課題を自ら解決し、地区外からも人を呼び込む魅力ある姿を実現することを期待している。



今野善信 議員

**問** 勤労青少年ホームの建物は、総合的に勘案し、**答** 総合的に勘案し、**問** 勤労青少年ホームは、**答** 市長 勤労青少年

**問** 高齢者対策として各地区に「地域助け合い協議会」を設立しているが、この会にお年寄りの介護



東 堅市 議員

**答** 部長 第7期介護保険事業計画は、地域包括ケアシステムの深化・推進を図り、地域で高齢者を支える体制づくりを推進することになっている。

**問** 三陸沿岸道路の供用区間が広がって交通ネットワークが充実していく中で、市内の道路事情が気になっている。吉浜イ

ンターチェンジと吉浜の中心漁港である根白漁港を結ぶルートについてどのように考えているか。**答** 市長 根白漁港と県道を結ぶ2路線は、どちらも勾配がきつく急カーブである。この点を解消すべく、県では漁港の西側に新たな道路を検討していた経緯があるが、急峻な地形や転石層からなる土質のため、相当の事業費が見込まれ、実施に至らなかった。市において計画した場合も、実施は困難と考えている。

**問** 三陸沿岸道路の供用区間が広がって交通ネットワークが充実していく中で、市内の道路事情が気になっている。吉浜イ

ンターチェンジと吉浜の中心漁港である根白漁港を結ぶルートについてどのように考えているか。**答** 市長 根白漁港と県道を結ぶ2路線は、どちらも勾配がきつく急カーブである。この点を解消すべく、県では漁港の西側に新たな道路を検討していた経緯があるが、急峻な地形や転石層からなる土質のため、相当の事業費が見込まれ、実施に至らなかった。市において計画した場合も、実施は困難と考えている。

**問** 地域助け合い協議会は「介護」も担うのか

**答** まずは介護が必要でない高齢者に主眼をおく

まで期待することは無理だと思う。

ここで活動は「介護予防」の段階の取組と考

今回の計画では、地域における生活支援と介護予防の核となる地域助け合い協議会の活動について、まずは現在介護が必要ではない高齢者を主眼に置いた取組を進めることにしている。

ンターチェンジと吉浜の中心漁港である根白漁港を結ぶルートについてどのように考えているか。**答** 市長 根白漁港と県道を結ぶ2路線は、どちらも勾配がきつく急カーブである。この点を解消すべく、県では漁港の西側に新たな道路を検討していた経緯があるが、急峻な地形や転石層からなる土質のため、相当の事業費が見込まれ、実施に至らなかった。市において計画した場合も、実施は困難と考えている。



根白漁港連絡道